

エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

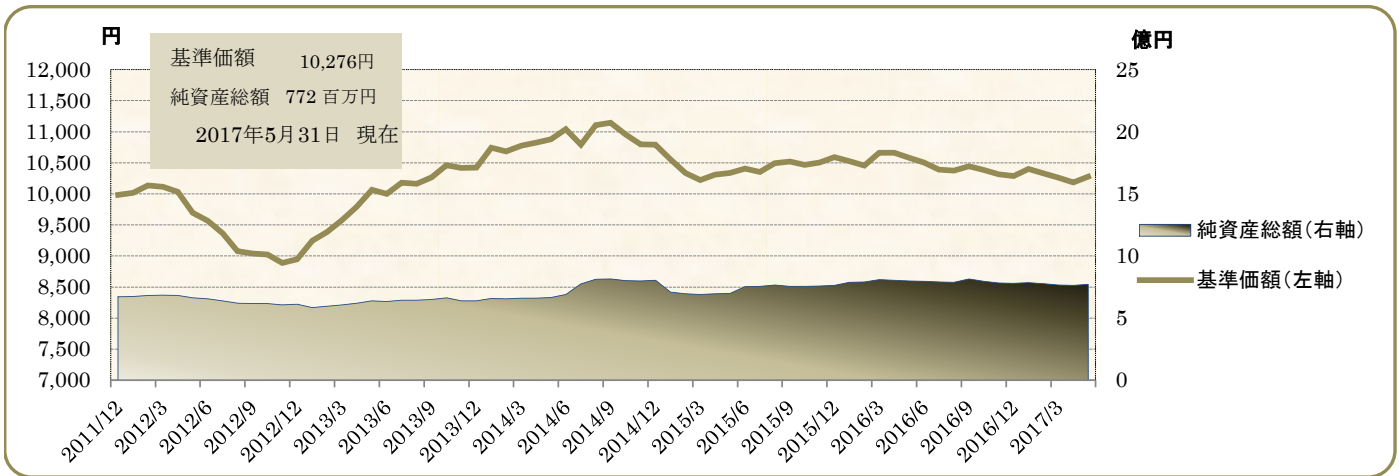
ケイマン諸島籍オープン・エンド契約型外国投資信託(追加型)

作成基準日

2017年5月31日

基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

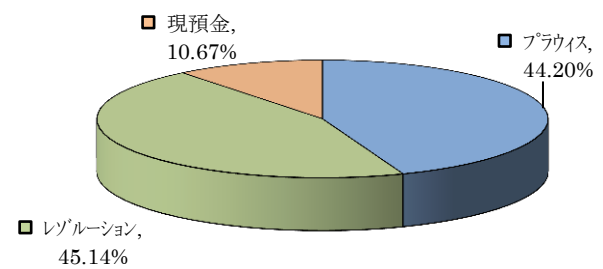
2017	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	1.12%	-0.65%	-0.70%	-0.74%	0.89%								-0.10%
2016	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	-0.65%	-0.67%	2.02%	-0.04%	-0.75%	-0.70%	-1.11%	-0.13%	0.67%	-0.58%	-0.66%	-0.29%	-2.90%
2015	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	-2.19%	-2.07%	-1.13%	0.85%	0.28%	0.68%	-0.50%	1.31%	0.29%	-0.49%	0.32%	0.87%	-1.85%



運用実績

設定日:	2011年12月19日	
決算日:	毎年11月30日	
当初設定元本:	673 百万円	
基準日:	2017年5月31日	
基準価額:	10,276円	対前月比 91円
純資産総額:	772 百万円	対前月比 +7.9 百万円
設定来高値:	11,146円	
設定来安値:	8,888円	
期間別	3ヶ月	-0.55%
基準価額騰落率	6ヶ月	-0.39%
設定来	ファンド	2.76%
基準価額騰落率	TOPIX	116.76%
	日経平均	133.89%

投資対象ファンドへの資産配分 (2017年5月31日現在)



運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。

投資対象ファンドの基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

2017	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プラウイス	0.49%	-0.64%	-1.07%	0.54%	0.23%								-0.46%
レゾリューション	2.64%	-0.21%	0.10%	-1.57%	2.37%								3.31%
2016	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プラウイス	-0.72%	-0.39%	1.59%	0.73%	-1.70%	-2.76%	-0.40%	0.23%	0.59%	0.33%	1.76%	0.04%	-0.80%
ウィズダム	-0.47%	-2.84%	1.22%	0.50%	-1.58%	-1.30%	-0.63%	-1.17%	0.52%	-0.71%	-0.53%	N/A※	-6.83%
レゾリューション	0.02%	1.80%	4.82%	-0.39%	1.60%	2.29%	-1.64%	1.14%	1.99%	-0.53%	-2.34%	-0.01%	8.87%
2015	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プラウイス	-2.91%	0.43%	-0.74%	1.81%	0.84%	-0.27%	0.22%	0.84%	0.48%	0.83%	0.19%	0.15%	1.82%
ウィズダム	-1.38%	-1.99%	-0.24%	0.27%	0.85%	1.82%	0.96%	1.39%	-0.95%	0.00%	0.92%	0.54%	2.14%
レゾリューション	-1.92%	-4.43%	-1.60%	1.93%	0.57%	2.72%	-1.63%	3.38%	2.61%	-1.26%	1.14%	3.19%	4.44%

※ 上記騰落率は投資対象ファンドの費用控除後の騰落率です。エピック・ヘッジファンド・セレクション1 (以下「HFS」という) にかかるコスト等が含まれないため、投資対象ファンドの騰落率を資産配分結果で加重平均した場合、HFSの基準価額騰落率とは一致いたしません。

※ HFS1へのウィズダムの組み入れは、2016年11月末までです。ウィズダムは2017年1月25日をもって償還しました。



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

相場動向

5月の株式相場は、日経平均で2.36%上昇の19,650.57円、TOPIXで2.39%上昇の1,568.37ptとなりました。米政治の不透明感や米利上げ観測、欧州の地政学リスクの後退などから上昇して始まりました。その後米トランプ政権の混乱により下落するも、堅実な企業業績が好感され、底堅い推移となりました。

上旬は、上昇しました。米政治の不透明感の和らぎや米利上げ観測から、円安が進行しました。さらに、仏大統領選の結果を受け欧州の地政学リスクが後退したことも好感され、外需株や好業績銘柄などを中心に上昇しました。

中旬は、下落しました。北朝鮮情勢や、トランプ米政権によるロシア関与疑惑「ロシアゲート」を巡る米政策運営に対する先行き不透明感などが嫌気され、米長期金利が低下し、円高・ドル安が進行することで、外需株を中心に下落しました。

下旬は、底堅く推移しました。北朝鮮や欧州情勢の不透明感などもあり、為替が円高に振れる局面では下落しましたが、米株高や原油高となった局面では金融株や外需株、更には割安感のある銘柄や好業績銘柄などが物色され、底堅い推移となりました。

需給面では、海外投資家が2ヵ月連続で買い越しとなりました。国内の投資主体は、信託銀行が4ヵ月連続の売り越し、個人投資家は2ヵ月連続の売り越し、投資信託は再び売り越しに転じ、事業法人は14ヵ月連続の買い越しとなりました。

セクター別騰落率では、その他製品、食料品、情報・通信、建設、電力・ガスが上位となり、海運、石油・石炭製品、鉱業、繊維製品、鉄鋼が下位となりました。

東証一部の売買代金は1日当たり2.46兆円と、活況の目安となる2兆円を7ヵ月連続で上回りました。

新興市場の騰落率は、JASDAQインデックスが6.7%の上昇、東証マザーズ指数は7.2%の上昇となり、いずれもTOPIXをアウトパフォームしました。

ファクター面では、ベータファクターやバリューファクター（特にPBR）が顕著に悪化しました。米国の政治リスクの高まりや米FRBによる利上げ/バランスシートの縮小が意識され、投資家がリスク選好的になりにくい環境であったことが影響していると考えられます。一方で、グロースファクター（予想ROE、経常利益成長率）など利益ベースのファクターは好調でした。リスク回避的でディフェンシブセクターの銘柄が選好されただけでなく、資本財セクターの中でもクオリティ（高ROE、高利益率、低レバレッジ等）へのシフトが起きました。

組入ファンドの運用状況と今後の市況見通し及び投資戦略

【プライウス】 〈ファンド運用状況〉

5月の運用成績はJPYクラスで+0.23%となりました。5月前半は決算発表を受けてネガティブに反応するものが多く、パフォーマンスは落ち込みましたが、中旬以降はショートの高額銘柄が相対的にアンダーパフォームしたことや、半導体関連のロングポジションが上昇したこともあり、プラスを確保しました。

セクター別の損益では、機械、REIT、小売り、石油セクターでプラスとなり、電機、パルプ・紙、その他製品セクターでマイナスとなりました。

【レプリューション】 〈ファンド運用状況〉

4月に続き、スタイルインデックスで見ると小型に優位性はなく、ローリスクやクオリティが優位、バリューが劣位となりました。

小型株は、局地的な銘柄集中はあっても、全体としてのボリュームは落ちているので、必ずしも売易しやすい環境ではありません。局地的な過熱感が持続し、業績に敏感な一方で、バリュエーションに寛容な相場展開となりました。

ポートフォリオは、4月にやや落としていた内需グロース銘柄のロング組入を一旦増やしましたが、月末に向けてポジションの圧縮を進めました。

プラス寄与は、内需グロース株のロングが多くを占め、マイナス寄与は、決算がらみの個別要因により意図と異なった銘柄が多くを占めました。全体として、ロング銘柄の寄与が大きく、プラスパフォーマンスの確保が出来ました。

〈今後の市況見通し及び投資戦略〉

6月の株式市場は緩やかに上昇する相場展開を想定します。テクニカル指標面でやや過熱感がありますが、欧米市場と比較してバリュエーション面での割安感が強いことや、今期のガイダンスが保守的で今後上方修正期待が高いことから、押し目買い意欲が強くなり展開が続くと思われます。

今後の運用方針は、個別企業の業績・需給動向や国内外のマクロ動向を勘案し、相対的な割高・割安を適切に判断しながら、マーケットの上下に左右されない安定した収益の獲得を目指します。

〈今後の市況見通し及び投資戦略〉

足元、会社ガイダンスに基づいた株価反応が一巡して、穏やかな状態にある銘柄と、業績好調ながら回転率も高く、一方通行の株価推移となる銘柄との2極化が目立っています。

当面は、内需グロース株の循環物色も想定されますが、いずれ調整局面を迎えざるを得ないと考えます。

短期的なボラティリティ上昇のリスクがあるものの、これら高回転率な高バリュエーション銘柄の吟味を進め、徐々にショートポジションへの組入を行います。

事業環境の濃淡も出始めていることから、引き続き業績に裏付けされた個別株によるパフォーマンス積上げに努めて参ります。

投資信託の主な関係法人

管理会社:	インターナショナル・マネジメント・サービス・リミテッド
信託会社:	G.A.S. (ケイマン)リミテッド
管理事務代行会社:	エスエムティー・ファンド・サービス(アイルランド)リミテッド
保管銀行:	スミトモ・ミツイ・トラスト(ユークイ)リミテッド
投資運用会社:	エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第432号 加入協会: 一般社団法人 日本投資顧問業協会
代行協会員・日本における販売会社:	ヘッジファンド証券株式会社 http://hedgefund-sec.com/ 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2580号 加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会

エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

金融商品取引法に基づく表示

商号等

エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第432号

当社が加入する協会等について

一般社団法人 日本投資顧問業協会 加入 第011-01395号

ご留意事項

- 当資料は投資信託の運用状況をお知らせするためにエピック・パートナーズ・インベストメンツが作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。
- 投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。
- 当資料は特定の有価証券等の取得の申込み、投資顧問契約、投資一任契約の勧誘等を目的としたものではありません。
- 当資料内の運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。
- 当資料内のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。
- 当資料は各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 投資信託は、株式等を投資対象としますので、組入株式の価格下落や、組入株式の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。
したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。
- 運用管理費用、監査費用、その他の諸経費が、投資信託の保有期間に応じてかかりますが、事前にその上限を示すことができません。また、有価証券の売買等に係る手数料、租税等が発生しますが、運用の状況により変動しますので事前にその上限を示すことができません。

当資料は、投資運用会社であるエピック・パートナーズ・インベストメンツが投資信託の運用状況をお知らせするために作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。

投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。